

人生を拓く

13

石川 正義さん (100) 22区

ヤエさん (100)

正義さん、ヤエさんはそろって元気に100歳を迎えた町内最長寿のご夫婦。ヤエさんは昨春秋、長寿のお祝いとして総理大臣からの銀杯も受けました。

正義さんは、1943(昭和18)年、第二地区に欠かせない地域郵便局として誕生した東川北郵便局の初代局長でした。当時、道内一若い28歳の局長。異例な若さでした。終戦後第1回の村議会議員にも当選し33歳の若さで村議会議長も務めました。

両親は旭川市豊田(現在)に入植。1929(昭和4)年に第四尋常高等小学校(旧旭川市立第四小学校)を卒業しました。15歳で当時の豊田郵便局(特定局)に電報配達掛として採用になった

のが人生のスタート。郵便局長となつてからは妻ヤエさんと夫唱婦随で郵便局勤めをしました。1984(昭和59)年、68歳の退職まで元気に勤め上げました。ヤエさんは正義さんが退職する8年前に退職。その後、二男、享さん(65)が入局して親子二代で郵便局長を務めました。



幼いころの思い出は今も鮮明な記憶。「大正4年5月10日の生まれになつていけれど、本当は大正3年10月10日生まれ。刈り入れが忙しくて、僕は7カ月遅れの春になつてから届け出したんだよ。ボロボロの草ぶき屋根で貧しい家だった」。

6人兄弟でしたが、みな病弱で早くに他界し、妹と2人だけ残つたそうです。その妹も30代半ばで早逝し、体格が大きかった正義さんがひとり健康で過ごすことができました。

両親が他界した25歳の時、初山別村生まれのヤエさんと結婚しました。ヤエさんのお父さんが正義さんの暮らしぶりを見に来て「オレの家よりひどい」と感想を漏らしたそうですが、真面目な勤務ぶりを聞いて結婚を許してくれたそうです。

ヤエさんは、2年前まで享さん夫婦と一緒に同居していました。骨折を機に老人保健施設・ひだまりの里に入所。今は週2回、正義さんが会いに訪れます。お互い元気な顔を見ると安心するよう。「今、心配なこと何もないよ」と正義さんの健康を気遣っています。

(関連記事18頁参照)

俳句

峠道若葉のアーチくぐり抜け	若田 久
吉野山葉桜もよし奥千本	高瀬 潤
村の赤ちやん見てきた話若葉燃ゆ	石澤 清宏
裸木がゆっくりおしやれ若葉着て	松山 蓉子
天仰ぎ背伸びぐーんと葛若葉	三島 智
ひとつ聴きしうちあけ話若葉雨	若田 郁
開店に待つた人や花溢るる	本田 咲
ラジオからヴィバルディの四季闇に聴く	佐々木 りえ
春コート不安と期待隠しおり	山内 みゆ
しだれ桜の日向の揺れや厨窓	長谷川 きみゑ
待ちわびし若葉わかばの朝が来た	小林 ろぼ
花の雨どこにも行かぬ髪を結う	高橋 公花
若葉つていいなもどりは出来ないから	杉山 ひろのり
ピザ窯のえんとつ光る五月晴れ	保科 なほ
新入の社員若葉の匂いかな	徳光 吐苦
若葉風ときにはうなじくすぐられ	杉山 りつ
太陽に翳す小さき手若葉かな	こばやし 星来
庭に撒くじょうろの水に夏きざす	横田 則子

